



街並みウォッチング

第3回「外環ノ2と市内の道路」

第4回「住宅地の抜け道」

くらしフェスタむさしの2008

第3回街並みウォッチング 「外環ノ2と市内の道路」

～ 幹線道路とまちづくりを考える

9月27日(土)に「武蔵野市と周辺地区への都市計画道路を知っていますか? 外環ノ2(地上部の街路)を航空写真でウォッチング・武蔵野市のまち・みちづくり」というテーマで、第3回街並みウォッチングを開催しました。参加者は60名で、長年、市の道路行政にかかわってこられた井上技監に講師をお願いしました。

日時: 2008年9月27日(土) 午前10時～12時

場所: 武蔵野商工会館 消費者センター講座室

今年度のウォッチングは「武蔵野市と隣接する市区境の道路とまちづくり」が主なテーマです。今回は市を越える広域な道路である「外環ノ2」の計画を学ぶとともに、広域的な道路は単独ではなくネットワークとして成り立つことから、井上技監に講師をお願いして武蔵野市と隣接区市の道路の状況を学びました。井上技監には今年5月にまちづくりの講義をしていただきましたが、今回の要請にも気持ちよくお引受けいただきました。まちづくり推進課の全面的なご協力もいただきました。

「外環ノ2」ウォッチング

外環ノ2(主にトンネルとなる外環本線の真上の地上に計画されている幅員40mの道路: 目白通り～東八道路)が計画されている地区は、第一種低層住宅地が9割を占める整然としたきれいな住宅地です。その街並みがよく分かるよう、カラーの航空写真を利用してウォッチングしました。道路計画地に近接して、武蔵野市では、本宿小、第3小、吉祥女子中学高校、檜の実幼稚園、杉並区では、松庵小・立教女学院・井荻小・荻窪中学・桃井4小・八幡幼稚園などの教育施設があります。また、石神井公園・石神井川、千川、善福寺公園・善福寺川、井の頭公園・神田川、玉川上

水など、東京にとってはかけがえのない大切な緑と水資源帯を横切る計画になっています。

「武蔵野市と周辺地区の道路計画について」

講師 井上良一技監

(市企画政策室)

井上技監の手書きで修正した最新版の武蔵野市および近隣区市都市計画施設図で道路について詳しく説明していただきました。

外環と外環ノ2について

「本来、外環本線と外環ノ2は一体として計画されるべき路線である。本線の事業着手については外環の方向性が明確になってからであり、現時点で着手は容認しない」という市長見解の説明がありました。

道路整備全般の状況

市内の道路整備の状況について、都の戦災復興計画から始まる道路整備の経緯や、現在の事業の進捗状況などを丁寧にお話しいただきました。

都市計画道路は現在、第三次事業化計画を実施中で、平成27年度までに優先的に



整備する路線を定めて事業を進めているそうです。また、それ以外の市道についても、市道89号線(境南町)の拡幅、宮前通り(西久保)、宮本小路(吉祥寺東町)の「人にやさしいみちづくり」事業、住民参加で計画を作った御殿山通り(御殿山)等の事例や「まちはみちから」(狭隘道路拡幅整備事業)など、拡幅や改良の状況についても分かりやすく説明されました。

今後のみちづくり

交通が集まる吉祥寺、三鷹、武蔵境の各駅周辺や主要な市道に関しては、拡幅等の改良がほぼ終了し、市内の道路は市道、私道、都道によって「ます目状」に整備されつつあるとのこと。ただし、隣接

会員募集中

『市民まちづくり会議・むさしの』は、だれでも入会できます。お問い合わせは本会事務局へどうぞ

する他区市との連携・調整はまだ十分とはいえないこと、抜け道で住宅地に入り込む車両対策として「人にやさしいみちづくり」を推進しているといった課題もあるそうです。

参加者との質疑応答の一部をご紹介します。

公園通りは武蔵野市では拡幅したが練馬区には入ると急に狭くなり、これでは効果が得られないのではないかと。

計画道路の実現は各区市の事情があり、連携がうまくいっていないところがあるが連携調整は必要である。杉並区と練馬区とは、外環の打ち合わせを通じて道路担当部長と話す機会が多くなっている。外環以外についても調整の機会を増やしていきたい。

自転車専用道路が必要と考えるが市ではどう考えているか。

必要性は理解しており、実験的に数箇所設置している。ただし、道路幅には限界があり、直ちに全市で展開するの

は難しい。

都市計画道路「三3.4.12(三鷹～女子大通り)」について三鷹市では三鷹市部分を平成27年度までに整備する優先整備路線としているが、これに続く武蔵野市の区間は計画はあるものの優先整備としていないが何故か。(左図参照)

大泉の例(注:外環大泉インターを出入りする交通が住宅地に入り込み住民が迷惑している状況)もあり、市では外環計画がはっきりしていない段階で、この道路を優先的に整備することを決定するのは難しいと判断した。道路は連続しており、近隣との調整は必要だが、武蔵野市の事情もある。

今回、外環も含めて武蔵野市の道路整備について学びましたが、井上技監のお話で、道路計画は近隣との調整が必要である一方で、武蔵野市の事情を反映した道路整備の判断が必要であり、それを武蔵野市の道路行政はきちんと行っていることが初めて分かりました。

今回のウォッチングは当初の申込者は14名で、会員参加者をいれて20部の資料を用意しましたが、当日参加者が多数あり、資料や会場整理等で参加者の方にご迷惑をおかけしました。

土曜日にも関わらず当会のために講演して下さった井上技監、まちづくり推進課の皆様にご挨拶申し上げます。

(吉祥寺東町 中川)

会合に参加して

内門秋弘

「市民まちづくり会議・むさしの」の会合に参加するようになって僅か半年にしかならず、また、まちづくりの基本も行政との現実的な関与もわからない素人の感想です。会合全体についての感想は、第三回街並みウォッチングは外環道路について学ぶものと思っていましたので、そうではなかったという印象が強いです。(私が会合の趣旨を十分理解していなかったのかもしれませんが。) 今回の会合の参加者が従来街並みウォッチングの何倍にもなりましたのも、外環道路についての関心が極めて強いことを示しているのではないかと感じていました。そういう意味では、井上技監との質疑応答で外環道路についての質問が1~2件だったのは意外でした。外環道路を学ぶ上で武蔵野市の道路全般についての知識が必要であり、その為武蔵野市の井上技監の話があったことと思います。しかし、今回の会合の趣旨を考慮すれば武蔵野市の道路計画の説明はもっと項目を絞った簡潔なものでもよかったのではないかと思います。ただ、武蔵野市の道路計画を全く知らない私にとっては、井上技監の説明は個人的には大変勉強になりました。印象に残ったのは次の項目です。

武蔵野市は私道が38%もある。

道路は隣接行政体と繋がっている割には行政体同士の調整が進まない。

道路計画は思った以上に住民、商店街、交通量など色々と多くの要素に配慮して作成している。

最近はおかしい道づくりにも取り組み、自転車、歩行者、コミュニティにも配慮していることは驚きだった。

道路整備は計画ができてから、用地買収などで完成まで長期間となりやすい。その間に社会情勢は変化するので完

成する頃にはその地域の現状に合わなくなっている懸念があるが、このような事態にどう考えどう対処しているのか知りたいと思った。
(緑町 内門)



第4回街並みウォッチング 「住宅地の狭く交通量の多い道路と 地区計画設定地域」

10月25日(土)に、地区計画が設定された吉祥寺東町三丁目の旧法政中高校跡地周辺と、住宅地の中を通過交通に利用されている吉祥寺東町二丁目の狭隘道路の状況を参加者15名でウォッチングしました。

日時：2008年10月25日(土) 午前9時30分~12時
行程：吉祥寺駅北口 (ムーバス) 法政通り 女子大通り

杉並区との境界道路 関東バス・南善福寺終点

練馬区との境界道路 東十一小路・宮本小路

吉祥寺東コミセン(九浦の家)

今回のルートは、低層の住宅が多い地域です。まず、ムーブスの法政通り停留所からスタートしました。

抜け道である法政通り
23区から五日市街道を武蔵野市に入り、右折して女子大通りに真っ直ぐ抜けることができる最東端の道路である法政通りの交通状況を視察。

この法政通りを右折せずに五日市街道を進んでしまうと、吉祥寺通りの八幡前交差点まで行かないと女子大通りに抜けたら東町1丁目

の住宅地に入ることはできない。したがって法政通りの交通量はかなり多い。

この道路は片側にガードレールにより歩道が設けられているが、沿道の住宅に車が入る関係でガードレールは断続しており、ここを縫って自転車が歩道部分に出入るので歩行者は安心して歩けない。

法政通りは中学生の通学路
法政通りからT字路で東方向へ伸びる本宿小通りと、同じくT字路で西方向に伸びる三中通りを望観し、法政通りが学童生徒の重要な通学路であ

ることを認識。

都市計画道路武2.2.8号線法政通りから1ブロック西側に計画されている武2.2.8号線が住宅地を貫き、三中をかすめていることを視察。この道路は前回のウォッチングで話題となった三3.4.12号線の延長にある。

法政中高校跡地

さらに法政通りを北進し、女子大通り法政中高校跡地のマンション建設状況を視察。このあたりは武蔵野市で初めて地区計画ができた地区である。地区計画の内容を資料をもとに確認。

この地区は、高度制限25mであるが、周辺地区は一種住宅専用地区で高度制限は10mであることや、武蔵野美大と第三中学校の周辺まで地区

計画の地域に含まれているが、女子大通りの北側は含まれていないこと、さらに現在のマンション工事の周辺地域への影響などについて女子大通りの工事現場の車両出入口付近で説明。

杉並区との市区境界の狭い抜け道

女子大通りを北へ横断。そのまま住宅地の小路を北進し、通りすがりにある武蔵野美大の三雲館（画家の三雲氏の画室跡地を美大に寄付し、教育研究施設が住宅地の中に造られることになっている）建設予定地を一望。さらに東京女子大の敷地に突き当たり、女子大の塀沿いの市区境の狭隘道路を西進しながら視察。

この道路（市道3号線）は、幅員4m未満の東向きの一方

通行の狭隘道路であるにもかかわらず、東進すれば女子大通りを斜めに横断して西荻窪駅の西口を経過し環状8号線まで達する、いわゆる抜け道道路である。

平成18年の12時間通行量調査では1029台となっている。この交通量は幹線道路である女子大通りの東向きの交通量3250台（調査地点：四軒寺交差点）と比べると、狭隘道路に抜け道として如何に過大な負担が掛かっているかがわかる。しかもこの道路の千台余の交通量は12時間に平均しているのではなく朝の通勤時に集中していることを考えると異常な状態である。

ウォッチングも道路の北側が女子大の塀のため交差進入する車が無いので速度を落とさず東進してくる車があり、電柱の陰に身を隠さなければ危険を感じる状態であった。現在この沿道の住民を中心に流入車両の通行規制について荻窪署へ要望中である。進入車両の重量規制はある程度見通しが付いたが、その余の問題については見通しが立っていない。

市と2区の境界で狭くなる北宮本小路

更に西進して南善福寺の関東バス終点（～荻窪駅北口）でこの地点が練馬区・杉並区・武蔵野市の市区境の集中点であることを観察。

武蔵野市側の北宮本小路（南向き一方通行）の「人に優しい道づくり」の状況を望見。杉並区側の善福寺公園方面への道路幅が広い（10m超）





のに北宮本小路は6mと市区の接合点で道路構造が変化することも観察。

練馬区との市区境界の狭い抜け道

南善福寺のバス終点から西進して東十一小路の北端に至る。北側の旧法政中高校グラウンドで進行中のマンション等住宅開発工事の現場を視察。この地点が12時間交通量調査で東十一小路（北向き一方通行）を北進して来た1426輛が東向き585輛・西向き841輛と各々一方通行の道に振り分けられる地点であることを観察。西行きの練馬区との市区境道路が4mの狭隘道路であり、女子大側とは異なり両側に住宅があり、さらに、多くの南北道路と交差している状況を説明。

「人にやさしい道づくり」の優しくない状況

東十一小路に入り南進しつつ、北宮本小路と同様の「人に優しい道づくり」の状況と成熟した住宅地の中の狭い道路（6m）での通過交通の状況を観察。

一方通行を連絡する狭い道北向き一方通行の東十一小路から南向き一方通行の北宮本小路に抜ける、梅ノ木マンション南側の道路を東進し、一方通行によって狭い道路が迂回路として通過車両に利用されている状況を観察。

通過交通のない本来の道北宮本小路と東十一小路の間の小路に入り、南進しながら、通過交通の少ない住宅地の本来の道路の状況を観察。さらに旧巴幼稚園の跡地に出来た幼児施設「0123吉祥寺」を一見。この施設の南側道路を右折西進して東十一小路に戻り、更に南進して女子大通りとの交差点を横切り、うぐいす小路に入り吉祥寺東コミセン九浦の家に11時に到着した。

コミセンでの話し合い

1. 一方通行の狭い道路

吉祥寺東町のこの地域は戦前から開発された成熟した住宅地であり、それゆえに道路幅が狭い。自動車交通が発達した結果、多くの車両を容れる余地が無く、多くの道路が一

方通行になっている。

本日歩行観察した法政通り・市区境通り・宮本小路・東十一小路・うぐいす小路は全て一方通行である。わずかに「0123吉祥寺」前の南北道路が通行規制がなかっただけである。

2. 幹線通り並みの交通量

北宮本小路は南向き一方通行の道路であるが、北端が3市区境界の集合点に接しており、武蔵野市外から流入してくる車両が集中し、12時間調査で3511台という幹線道路並みの通過車両を負担している。ことに通勤・通学時間の朝において著しい交通集中が生じ、沿線住民の生活・児童生徒の通学などが危険にさらされている。

東十一小路は北宮本小路と対を成す北行き一方通行の道路であり、12時間調査では1426台を負担しているが、夕方の時間帯の交通集中が著しい。



女子大通りから法政通りと法政跡地を望む。左側はマンション工事中。右側は公園予定地。



杉並区（左側：東京女子大）との境界は狭くて交通量が多い。



「人にやさしい道づくり」とは、人が通る部分をはっきりさせるとともに、車の速度を遅くさせること。交通量は減っていない。

3. 対策はあったが...

武蔵野市は、このような状況を改善するために「人に優しい道づくり」事業によりポラード（道路幅狭窄の柱）を設置して、通過車両の速度と量の抑制を図ったが、車両の注意は喚起できたものの通過量においては目に見える成果は上がっていない。

4. 幹線道路の迂回路

杉並区・練馬区との市区境道路については4m程度の著しく狭隘な道路であるが、いわゆる抜け道として多くの車両が通行している。いずれも本来、吉祥寺通り・女子大通りなどの幹線道路を通るべき車が幹線道路の信号を嫌って住宅地の中の道路に入り込み、通り抜けているものである。

5. 取り残される市区境の道路

市区境の道路は、自治体の行政区域の端であり、さらに両方の自治体に関係するためどうしても関心が薄くなり整備が遅れて、現状のような道路が残されている。

更に市区境で接合する道路に



この地域は一方通行の狭い道路が多い。こういう道路が抜け道として使われている。市区境界の道はさらに狭く、ガードレールもない。（前頁右下）

おいても、両方の自治体の道路行政の相違が具体的な舗装の状態や拡幅整備の状態に現れる。例えば幹線道路の吉祥寺通りでさえ武蔵野市側は拡幅整備が終わったが練馬区側は旧来のままであり、接合部で交通障害が起きている。北宮本小路は接続する杉並区側が整備された2車線道路であるが、武蔵野市側は一方通行の1車線の狭隘道路のまま現在に至っている。前回のウォッチングで観察した玉川上水沿いの道路でも三鷹市と武蔵野市との協調した道路整備が行われていなかったが、この地域でも同じ状況が見られる。

6. 10年間の陳情

地域住民の一部は、この状況を解決すべく10年前から陳情を始め、行政・警察などへ種々の働きかけを行っているが、交通規制についての具体的な成果は未だ上がっていない。

（吉祥寺東町 井部）

新しい武蔵野のまちと市民 横山義雄

10月25日、初めて「街並みウォッチング」に参加させていただきました。今回は、吉祥寺東町一帯の生活道路を歩き、その後、九浦の家（コミュニティセンター）でのディスカッションです。この地区に70年以上住んでおられ、コミセンの運営委員長でもある井部様の説明を聞きながら、法政高校跡地、東京女子大外周、杉並・練馬両区との境界と廻り、市の「人にやさしいみちづくり事業」が行なわれた宮本小路、東十一小路の現状も見ることができました。

住宅地の一郭に大きな開発事業が始まるケースや、コミュニティの道路が自動車の通過交通路になる悩みは、各町どこにでも起こりうる事ですから、東町の経験は大変参考になるでしょう。

私は、昭和11年に吉祥寺に越して来て、幼稚園、小学



校、旧制中学、新制高校とこの地で過ごしました。一時杉並に移りましたが、結婚してからはまた戻りました。しかし建設会社勤めという仕事柄、都心の本社や、海外の現場に身を置く生活が大部分で、まちの移りかわりは横目で見ていただけでした。たまに第一小学校時代の先生を囲んでクラス会をした時に、まちに残って商売や農業をしている旧友に、実情の一端を聞いた程度です。

しかし、数年前に一切の職から退き、周りを見ると、私達の武蔵野市をよりよいまちにするよう、地道に、献身的に、努力をする市民が多く居られることに気づきました。遅ればせながら、私も勉強したり、できることをしようと、市が募集した市民会議に応募して、都市基盤の検討・提案に参加したのです。高校時代の親友の夫人、清本和子さんも一緒だったのは心強いことでした。

その会議で、中島敏さんが主唱し、渡辺健さんがまとめた「歩行者と自転車安心して移動できるまちづくり」が市への提案書に盛り込まれました。この提案が少しでも実現の方向に動くようにとの、高木敦子弁護士の発案で、「まちプロジェクト」と名付けたグループで集まり、活動を始めたところです。

今回の「街並みウォッチング」にはその中から、中島、渡邊、高木、横山が参加しました。今後の我々の活動に、有意義な示唆をいただいたことは間違いありません。

私が小学校高学年の時、「郷土」という授業がありました。その中で、私たちの住むまちの歴史を習います。江戸時代に水道橋にあった吉祥寺から出火して大火事になった。寺は駒込に移されたが、門前町の住人は、この武蔵野の地を替地として与えられ、開墾して新たな「吉祥寺村」をつくった。その時、お役人が、当時既に通じていた五日市街道を基準に、間縄（けんなわ）で測量して畑地を割当てた。その名残で吉祥寺の通りは、今でも規則正しい碁盤の目になっているのだよ、という先生の説明でした。

そう言われてみると、区部住宅地の、曲がりくねり、分りにくい道路に比べると、わがまちの道路はよほどすっきりしている

ことを実感しました。その頃この道路では、子供達が三角ベースや鬼ごっこに興じ、大人は井戸端会議です。

それから半世紀以上たち、道路のたたずまいも、住民の生活様式もすっかり変わってしまいました。そっくり昔に返ることなどできませんが、人にやさしいみちを取り返していくことによって、武蔵野市民が、新たな、豊かなコミュニティを築いてゆく、きっかけとなっていくのではないのでしょうか。

（吉祥寺本町 横山）

くらしフェスタむさしの2008

つなげよう いのちのために

いまできること

10月17日と18日の二日間、吉祥寺本町の武蔵野商工会館1階の地域情報コーナーで、「くらしフェスタむさしの2008（第30回武蔵野市消費生活展）」が開催されました。

当「市民まちづくり会議・むさしの」が第26回から参加している消費生活展は、本年30回目となり、「つなげよう いのちのために 今できること」をスローガンとして掲げて開催されました。

参加団体は当会を含む消費者団体10団体です。内容は参加団体の展示（各団体が模造紙2枚に活動成果を発表します）と第2日に行われる体験教室・講演などです。

体験教室では毎年参加団体による各種の実技に来観者が参加しますが、本年のイベントではクリーンむさしのを推進する会による『マイはし袋をつくろう』が行われました。講演は本年の30回を記念して武蔵野市消費者団体連絡会の菊池公子氏による「武蔵野市消費生活展30年の歴史」と、特別講師として招聘した境南小学校栄養士海老原洋子氏による「職は体と心の栄養

参加者募集

市民のためのまちづくり検討プログラム
2008

「まちづくり条例が制定されました」

市報でも案内されたように9月議会でまちづくり条例が制定され、来年4月から施行されます。

この条例については昨年度の当会の主要活動とし、条例検討委員会の中間報告が出された際には意見交換会を市内3か所で開催しました。

このたび当会では、条例の内容を理解し、今後のまちづくりに活かす方法を考えるため、まちづくり推進課の協力を得て勉強会を開催します。

実施日

2008年12月10日(水)
19時～ 場所は未定です

ゲスト

恩田まちづくり推進課長

詳しくは事務局までメール、FAXでお問い合わせください。

まちづくり 活動日誌

- 9/5 役員会 / 消費生活センター
- 9/27 街並みウォッチング(第3回)
- 10/5 外環 武蔵野市地域PI(第1回)
- 10/17-18 暮らしフェスタむさしの
- 10/25 街並みウォッチング(第4回)

禁無断転載 転送可能

発行： 特定非営利活動法人
市民まちづくり会議 ・むさしの
事務局
FAX : 0422-66-3240
mail : matimati@parkcity.ne.jp

～互いの顔が見える 学校給食をめざして～」が行われ、『米粉でつくったクッキーの試食(当会の清本和子会長によるハーブティの提供が併せ行われました)』とクリーンむさしのを推進する会チャレンジ700gチームによる紙芝居「ごみ減らし青い地球を次世代に」の実演も行われました。

当会の展示は「市民のためのまちづくり検討プログラム」として本年行っているまちなみウォッチングの第1回「調布保谷線を見よう」と第2回「御殿山通りを中心とした三鷹駅周辺のまちづくり～市境における連携を考える」のレポートを発表しました。内容は当会のまちづくりニュースに掲載されているものと同じです。

今年の展示については、来会者により展示内容を理解してもらうために、当会が提案して、展示内容と関連したクイズを各団体一題ずつ(計10題)出し、来会者に展示を見ながら回答してもらうということを試みました。

一例として生活クラブ・グループ創では『世界で一番フードマイレージの長い国は?』という問題を出し「日本・アメリカ・韓国」から解答を選択するという形式をとりました。

当会では『保谷調布線など大規模幹線道路の敷設は、A. 地域を分断する B. 豊かな沿線環境を作り出す C. 魅力ある都市空間を創出する』という三択問題でした。この

問題は、実は三択解答の全てが正解というもので、展示を観た人に道路とまちづくりの問題点を考えてもらおうという意図の下につくってみました。実際、解答用紙を手に、会場でじっくり当会の展示に向かい合った上で、会場に詰めている当会の会員に質問をした来会者が居り、道路やまちづくりの問題はその立場立場で理解が異なるという説明に納得してくれました。

2日間の会期中の来観者は150名。同じ内容の巡回展示は、年内に市役所ロビーを皮切りに幾つかのコミセンで行われます。また、全展示を記載したブックレットが会場に配られましたが、残部があるので二次展示会場でも配布される予定です。

おしらせ

外環・武蔵野市地域PIに ファシリテータを派遣して います

都市計画道路である外環(本線及び外環ノ2)について、地域の課題やその対応方策を考えるため、国・都・武蔵野市の主催で「武蔵野市外環市民参画(地域PI)検討会」が実施されています。

10月5日の第1回検討会では100名を超える市民が公募で集まり意見交換をしました。当会は、ファシリテータ(進行役)を3名派遣し、グループ討議の参加者から地域の課題を引き出して国や都に伝えました。検討会の様子は、後日、本ニュースで報告する予定です。